

骨格粗大症 (SD) の正しい理解と利用について

令和7年4月に骨格粗大症(SD)のプロファイルが公表されました

Q 骨格粗大症(SD)って何？

A これまで枝肉重量を増加させる経済形質として、改良に利用されてきた一方、骨格の粗大を引き起こす原因にもなる遺伝的形質です。

Q 保因・発症したらどうなるの？

A 保因個体では、肥育牛において枝肉重量が有意に増加する一方で、発症個体では、骨端肥大、特に四肢関節肥大が見られ、出生時に過大子による難産の事例もあることが報告されています。

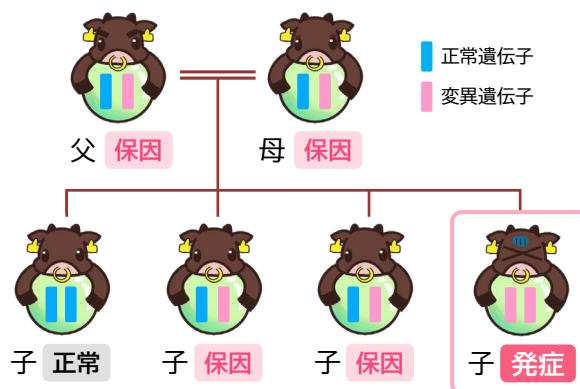
※ 保因個体であっても、胎子が大きく成長した場合は難産となるリスクがあります。



発症個体の前肢

四肢関節肥大

保因牛同士で交配した場合、**25%**の確率で発症(疾患)牛が産まれます。



Q プロファイルが公表されたけど、何をしたらいいの？

A 都道府県をはじめとする改良関係機関や生産者は、骨格粗大症(SD)が発症しないよう保因牛同士の交配を避けて下さい。

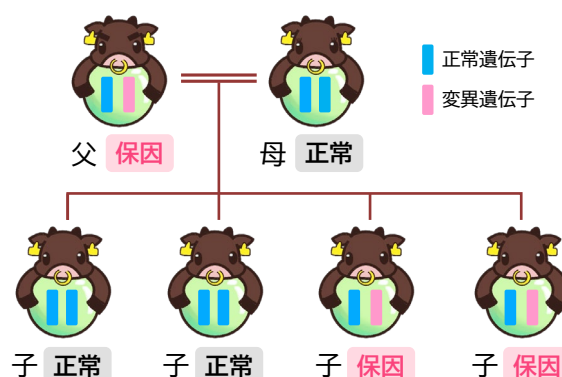
今後の骨格粗大症(SD)に関する交配の考え方は？ 裏面をご確認ください

骨格粗大症(SD)に関する交配の考え方

保因牛同士で交配しなければ発症牛は産まれません。

父牛もしくは母牛の一方が保因牛で、もう一方が正常牛であれば、産まれる子牛は、枝肉重量の増加が期待できます。

父が保因牛で、母が正常牛の場合、
発症牛は産まれない



保因牛同士での交配を避けるための取組

1 種雄牛の保因状況を確認しましょう

種付けを考えている種雄牛の所有者に問い合わせ、保因牛かどうか確認して下さい。

※ 種雄牛のパンフレット等に保因状況が示されている場合もあります。

2 繁殖雌牛の保因状況を調べましょう

(一社)家畜改良事業団*に、繁殖雌牛の遺伝子型検査を依頼して保因牛かどうか確認して下さい。

* 依頼先：(一社)家畜改良事業団遺伝検査部 TEL: 027-269-2441

3 保因状況を把握した上で交配しましょう

①、②の結果を踏まえ、保因牛同士を交配しないように注意して下さい。



保因状況が確認できない場合の交配は、発症牛が産まれるリスクがあることに留意し、交配するかどうかを判断して下さい。



遺伝的不良形質についての詳細

- 農林水産省「肉用牛の遺伝性疾患に関する情報」
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_katiku/index.html#nikuhuryo
- (一社)家畜改良事業団 遺伝子型検「遺伝的不良形質とは」等
<https://liaj.lin.gr.jp/giken/cattle/gntyp>



お問い合わせ先

農林水産省
畜産局 畜産振興課

TEL: 03-6744-2587

その他、都道府県畜産担当課等にも必要に応じて問合せ可能です。